

令和3年度 学校自己評価システムシート（埼玉県立春日部女子高等学校）

目指す学校像	高い志を持ち、夢をあきらめない生徒の育成を目指す、伝統ある女子の進学校
--------	-------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自らの目標を達成できる生徒の育成 文武両道を目指し、何事にも全力投球する生徒の育成 開かれた学校づくりを進め、地域社会及び国際社会に貢献する生徒の育成
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 学 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					3 年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○ コロナ禍においても、各学年が工夫し学習への動機づけを行っており、生徒の学習時間が増加してきている。 ○ 面談や模試の分析による出願指導の充実により、生徒個々に応じた進路指導ができています。 【課題】 ○ 昨年度の臨時休業中の取組の差により、生徒の学力差が大きくなってきている。学習に対する意識の差も大きい。 ○ 多様化する大学入試等への対応など、生徒一人ひとりの進路実現を支えるため、組織的な進路指導の推進が必要である。 ○ ギガスクール構想など、ICTを活用し、より生徒の主体的な学びを推進する必要がある。	①組織的な授業改善及び学力向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 一人一台端末の導入によるICT等を活用した授業実践 春女手帳、Classi、スタディサポート等の活用による自主的・計画的な学習を促す指導の充実 総合的な探究の時間の探究活動の効果的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学習量の増加と学力向上が見られたか。 春女手帳及びClassiの活用状況 生徒による授業評価が上がったか。(昨年度4.4点/5.0点) 学力向上に向けたICT活用研修、授業公開及び情報交換ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間 平日 2時間以上 1年19.3% 2年24.6% 3年71.0% 休日 2時間以上 1年52.2% 2年55.0% 3年66.9% 昨年度より部活動等ができたことで、特に1・2年生の平日の学習時間は減っているものの、休日の学習時間を確保している生徒が多い。 授業がわかりやすいと答えた生徒4.2点/5点 年次研修対象者等によるICTを活用した授業公開及び各教科内で実践事例の共有を実施した。 タブレット端末の導入が効果的であると答えた生徒1年91.5% 2年84.0% 3年82.3% 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習時間を十分確保しているものの、学力の向上を感じられない生徒が多く、授業改善による底上げや個別の面談等によるきめ細やかな指導が必要である。 次年度から新学習指導要領による新教育課程が始まるため、観点別学習状況評価を通じ、授業改善のサイクルを確立していく。 校内Wi-Fi環境の整備により、6月から生徒個人端の持ち込みを開始、授業での活用を行った。導入について、生徒も概ね効果的であると回答しているが、主な理由には分散登校中のリモート授業を挙げており、より深い学びや主体的な学びの実現に向け、公開授業や研修を通じ、学校全体でさらに活用を進めていく。 各教科において、大学入学共通テスト、新大学入試制度等に伴う3年間を見通した学習指導計画を作成していく必要がある。 今年度新たに実施した埼玉大学の出前授業(WISE-P)など、大学と連携したプログラムを活用し、様々な分野への興味・関心を高め、学習意欲の向上につなげる。
		②第一志望の実現に向けた組織的な進路指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導部、学年の連携による進路行事等の充実 模試の分析や情報交換を踏まえた二者面談・三者面談等での指導の充実 個人面談による家庭学習の改善や模試の振り返りの徹底 生徒の第一志望宣言による目標の明確化、高い進路目標の維持 進路集会や進路通信による進路情報発信の充実や成功事例の発信 	<ul style="list-style-type: none"> 進路企画・進路通信に対する生徒の満足度 個人面談の時期、内容並びに回数は適切であったか。 第一志望宣言をした大学への進学率。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年での進路集会、進路だより、定期的な二者面談や三者面談(6月・11月)により、進路指導や情報提供を実施した。 模試結果の分析や出願指導検討会を行い、進路実現に資する情報提供を行った。「学校からの情報提供や面談が役立っている」1年84.5% 2年92.2% 3年90.0% 「進路講演など将来の進路や生き方について考えさせられる機会が多くある」1年85.8% 2年93.0% 3年94.6% 大学進学数等は4月上旬に確定 	A	
		③これからの時代に必要で資質・能力を育成する新教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からの新教育課程の検討 観点別評価基準の作成に向けた職員研修会の実施及び各教科による検討 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からの新教育課程の完成 観点別評価基準の完成 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からの新教育課程の完成は達成 観点別評価に係る研修会を実施(5月・11月) 年度末までに観点別評価基準を完成予定 	B	
2	【現状】 ○ 部活動や学校行事等に積極的に取り組む生徒が多い。 【課題】 ○ コロナ禍で活動への制限があるが、工夫をして部活動や学校行事を実施し、生徒の達成感や連帯感などを醸成する必要がある。 ○ 校内外で春女生としての自覚と誇りをもって活動できるよう指導する必要がある。 ○ コロナ禍において、様々な不安を抱える生徒が増加しており、教育相談の充実、関係機関や教職員間の連携が必要である。 ○ 感染防止対策の徹底など、安全・安心に学校生活を送れる環境整備が必要である。	①高雅な品格を持ち、主体的に活動する生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会・学年集会等を通じた継続的な指導 部顧問同士による指導の実践例・成功事例の共有 部活動ガイドの活用によるきめ細かい指導 各行事における生徒の主体的な活動の支援 スマートフォンの利用や交通マナー等に関する指導 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率が85%を上回ったか。2度目の調査でマイナス5ポイント以内で維持できたか。 学校生活の高い満足度を維持できたか。(一昨年度84.9% 昨年度92.2%) 近隣からの交通マナー等に対する苦情は減ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動は高い加入率を維持できた。1学期91.4%→ 2学期90.0% 93.6%の生徒が「本校に入学して良かった」と回答し、満足度は高い水準を維持。 昨年度に比べ、学校行事が開催でき、96.7%の生徒が「学校行事に熱心に取り組んでいる」と回答 立哨指導等により、2学期以降、近隣からの苦情は寄せられていない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 非公開など制限はしつつも、体育祭・文化祭・校外行事などを実施することができた。また、部活動の大会なども多くが開催され、生徒の活躍の場が増えており、学校生活への満足度が高まっている。来年度もコロナの状況は続くことが考えられるため、感染対策を徹底した上で、工夫をしながさらには生徒の活躍の場を増やしていく必要がある。 生徒を取り巻く環境が複雑化しており、生徒が抱える課題も様々である。個々のニーズにあった適切な支援が行えるよう、校内の相談体制に加え、関係機関との連携を強化していく。
		②教育相談体制の充実と安心安全な環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談を通じた人間関係の構築 保健環境部、学年、スクールカウンセラー等の連携の強化 感染防止対策の徹底や安全点検等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談の充実により支援が必要な生徒をカウンセリング等につなげることができたか。また、生徒の生活状況に改善が見られたか。 保健だより等を通じて、生徒の行動変容を促し、健康維持につなげることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談等を通じ、生徒の課題を把握し、スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター・スクールソーシャルワーカーを活用し、より生徒の課題に沿った支援につなげることができた。 保健だよりの定期的な発行と保護者向けのホームページの開設により生徒・保護者に必要な情報を発信した。 	A	
3	【現状】 ○ 本校の取組について、ホームページ、学校説明会、部活動体験会等で発信している。 ○ オンラインの活用により、県内外の高校生等とも交流を実施している。 【課題】 ○ コロナ禍において、学校説明会や土曜公開授業の実施に制限があり、工夫をしながら本校の魅力を発信していく必要がある。 ○ 家庭、地域、外部機関との連携をより充実し、オンラインなどを積極的に活用し、生徒の力を校外で発揮させる取組が必要である。 ○ コロナ禍において、海外派遣に代わる新たな国際教育の取組を実施する必要がある。	①本校教育活動の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> 分掌、学年、部活動による学校HP等を活用した積極的な情報発信 学校説明会、部活動体験会、個別相談の実施 学校説明会でのアンケートの実施 中学校への情報提供・資料送付・電話連絡等の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なHPの更新や印刷物の配布による情報の発信ができたか。 学校説明会後のアンケート結果を次回以降の説明会実施に生かされたか。満足度が高かったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 印刷物に加え、生徒・保護者向けページを新たに作成し、学年通信・保健だよりなどを定期的に発信した。集合形式の保護者説明会に替え、修学旅行や進路指導に関する動画を配信した。 コロナ禍により、学校説明会の定員を制限したことで、参加できなかった中学生等へ向け、学校説明会の様子を録画配信した。 学校説明会の満足度は全般に高かったが、在校生の体験・スピーチが特に好評だった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍において、HPやGoogle Classroomの効果的な活用方法の蓄積ができてきている。今後も動画配信などにより、工夫を凝らした情報発信を行っている。 中学生の進路選択で、中堅私立校への希望が増えてきている。学校への満足度が高いことから、今年度新たに導入したブリティッシュヒルズ語学研修などを継続して実施していく。 ユネスコスクールの申請については、来年度1年間候補校として認められたため、ユネスコスクールの理念の下、様々な機関と連携し、SDGsを軸にした探究活動を通じ、持続可能な社会の担い手として、また、国際理解社会に貢献する意識を醸成していく。
		②家庭・地域・外部機関との連携による地域・社会に貢献する生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関と連携した総合的な探究の時間の実施 海外研修の代替として、エンパワーメントプログラムや普通科生徒対象のブリティッシュヒルズ研修の実施など、国際教育の充実 地域行事への積極的な参加の促進 外部コンテストへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> PTA・後援会や外部機関との連携方法を工夫して効果的に連携できたか。 生徒が地域社会や国際社会に貢献する意識を持つことができたか。 地域行事や外部コンテスト等への参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間では、オンラインを併用しながら約30の企業等と連携ができた。 PTAの理事会等でもZoomを活用し、多くの方が参加できるよう工夫を行った。 海外研修の代替として、新たに普通科の生徒対象のブリティッシュヒルズ語学研修に加え、国際教育の充実を図った。 ララガーデンと連携し、子ども向け英語教室、部活動の発表や作品展示など、生徒の活躍の場を設けた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者へのアンケート結果から、学校の目標や具体的方策について、より理解が深められるような工夫や周知をし、より保護者を巻き込んだ取り組みができると良い。 中学生の進路選択で、中堅私立校への希望が増えてきている。学校への満足度が高いことから、海外派遣研修は来年度も実施ができないため、今年度新たに導入したブリティッシュヒルズ語学研修などを継続して実施していく。 ユネスコスクールの申請については、来年度1年間候補校として認められたため、ユネスコスクールの理念の下、様々な機関と連携し、SDGsを軸にした探究活動を通じ、持続可能な社会の担い手として、また、国際理解社会に貢献する意識を醸成していく。 SDGsへの取組をもっとPRし、県のリーダー的存在となってほしい。 ユネスコスクールの認定やSDGsを軸にした取組は、重点目標「地域社会及び国際社会に貢献する生徒」として自己実現を考える環境がさらに充実したものと。これからの取組・実践に期待する。